



川野選手に出会って

水上小学校 三年 松岡 ゆな

7月4日4時間目に、水上小学校へ車いすテニスのパラリンピアンである川野将太選手が、ゲストティーチャーとして来てくださいました。ふだんの生活の中で感じられていたことについて、話をしてくださりました。

それは「川野選手がある店に行き、車いすに乗って買い物をしていると、まわりの人からじつと見られたり、自分の話をされたりしているように感じる事があった。」というものでした。

わたしは、その話を聞いて、「はっ」としました。わたしも車いすのついている人をまちで見かけた時、特別な目で見ていたような気がしたからです。そして、少しはづかしい気持ちになりました。

わたしたちは、足が不自由な人、手が不自由な人、耳が不自由な人、目が不自由な人といっしょに生活しています。障がいがあることが、特別なことではないということに気づきました。

この学びは、わたしのこれからに大きな意味をもつと思いました。

差別や偏見の目は、自分ではなかなか気づきません。いろいろな生活の中で、気づくことが多くあります。「わたしは、差別や偏見をもっていない。」と思っていたとしても、自分の「言ったこと」や「したこと」が、相手にとっては、心を暗くしてしまうことになるかもしれせん。この学習をとおして自分の心の中を見ることができたのです。

これからも、わたしは多くの人といっしょにふれ合うことがあると思います。障がいがあることやないことにかかわらず、困っている人を見かけたら、どのように声をかけたらよいか、また、どんな手助けをしたらよいかを考えられる人になれたらいいなあと思います。

そして、そのように考える人が世界中にあふれると、みんなの心が温かくなると思います。

【先生のコメント】

川野選手の来校をとおして、障がいがある人の思いに触れ、自分の心を見つめることができましたね。

今、世の中には様々な人が共に暮らしています。心や身体について悩み苦しんでいる人もいます。

ゆなさんのように、相手の立場に立つて考えることで、多くの人の心を明るく温かいものにできると思います。

これからも、多くの人の声に耳を傾け、お互いに認め合い、助け合っていくるゆなさんでいてください。

人権擁護委員による人権相談(無料)

ひとりりで悩んでいませんか?

【特設人権相談所】

■日時 1月17日(水)午後1時～4時

■場所 みやま市立図書館

■相談内容 いじめ、体罰、部落差別・男女差別・外国人差別などの差別問題、家庭内(夫婦、親子、結婚、離婚、扶養、相続など)・借地借家・相隣間のもめごと、悩みごとなど

【女性相談所】

■日時 1月11日(木)午前10時～午後3時

■場所 福岡法務局柳川支局

■相談内容 原則として女性からの相談(夫やパートナーからの暴力、職場などでのセクハラ、パワハラおよびストーカー行為など) ※女性の人権擁護委員が相談に応じます。

【常設人権相談所】

■時間 午前8時30分～午後5時15分 (土、日、祝日を除く)

■場所 福岡法務局柳川支局

■相談担当者 法務局職員または人権擁護委員

■相談電話番号 (TEL)0570-003-110 (福岡法務局柳川支局(Tel)72-2640)



靴職人 栗原 一平さん

「販売よりも靴の修理などをする方が楽しそう、自分に合っていると思いました」 福岡市などで靴の販売店や修理会社に勤めていた栗原一平さん。その後独立して地元八女市に戻り作業場を探していたときに、趣味がきっかけで瀬高町の「クロキ ビスポークルーム」のオーナーと出会い意気投合。同店の2階を作業場として借りられるようになり、2018年に「栗原靴店」をオープン。靴職人として靴の修理や製作を行っている。

地道な作業できれいに仕上げる

靴の修理で多いのは靴底の張替え。靴に合わせて素材を決め、サイズを確認してカット。靴用のボンドで接着し、フィニッシュという機械で削り、磨いて調整する。

「靴底のパーツは細かく分かれていて、それらを揃えて組み合わせるのは地道な作業ですが、靴にはお客様のこだわりや思い入れがあります。修理を終えて、きれいに戻ってきた靴を見て喜んでくれるお客様の顔を見ることが、やりがいになっています」

仕事だけでなく私生活も充実

栗原靴店のオープンに合わせて、みやま市に引っ越した栗原さん。交通の便の良さや人の温かさを感じたという。

「筑後広域公園にスケートボードを楽しめる場所ができたので、仕事だけでなく、趣味の面でも充実しています。休日は子どもといっしょに公園に遊びに行きます」

数少ない、みやまの靴職人

靴の修理のほかにも財布などの革小物を作っている栗原さん。丈夫で時間の経過とともに柔らかくなり、その変化を楽しめることが革の良さだという。

「お客様から、みやま市で靴職人は珍しいと言われます。革小物の製作も含め、丁寧で早い仕事を通して、靴の修理を今以上に請け負えるように頑張りたいです」



くりはら いっぺい 八女市出身。みやま市に来るきっかけになるスケートボードを始めたのは中学生の頃。 【座右の銘】 継続は力なり 【みやま市にひとこと】 良い公園やスケートボード場があって住みやすいまちだと思います。

みやま文芸

青門瀬高俳句会

お元日に生んでもうろうて九十三

捨煙の自暴自棄なる枯れつぶり

羊羹屋のスタンプラリー小城小春

徒歩き路肩に冬たんぼぼの黄

小港の一番海苔の積荷沸く

鋭き角の畝立て老いは冬耕す

今は昔し長靴で踏む霜柱

みやま短歌会

懐かしき生徒のあの頃思ふたび

特売の無傷のリング選りており

博多座の天井上げば祖母の顔

酷暑日々吾の居場所は台所

小島たち大樹の葉影宿りして

雨の匂いの迫り来るなり

宮地幸二郎

吉岡 木骨

池田 芳水

高巢 幸子

阿部 和子

戸塚貴美代

橋本美恵子

河野 辰男

西村 嘉彦

三栗野ミユキ

宮本 明生

中村 智美

本に辞書ペン雑然とあり

雨の匂いの迫り来るなり

宮地幸二郎

※俳句・短歌は市内の団体から提供いただいたものを順次掲載しています。